

昭和55年度 和歌山県文化功労賞

きの した よし のり
木 下 義 謙

住 所：東京都世田谷区

出 身 地：和歌山県御坊市

生 年：明治31年

◎業績及び経歴

1921年(大正10年)第8回二科展で初入選以来、創作発表の場を二科会、円鳥会などに求めるとともに洋画研究のため渡欧、サロン・ドートンヌ展、アンデパンダン展などに出品した。

昭和11年二科会々員を退き、一水会創立会員8名のうちの一人となる。終始、同会と共に精力的な創作活動を行うとともに、文化学院、東京帝国大学、現在東京女子美術大学において後進の指導にあたられるなど、殆んど中央画壇で活躍されてきたが、大正8年南紀美術会々員として和歌山県出身の画家達と、地方の洋画レベルの向上に努められたほか、昭和11年には、虎伏美術協会を設立、木下孝則氏(実兄)、裕伊之助氏らと本県洋画界の振興をめざし公募展を開催し、和歌山の名勝絵画展にも出品された。

代表作は、風景画の木下氏として画壇におけるその地位を確立した第5回野間美術奨励賞の「高冷地の農家」、昭和24年度芸能選奨文部大臣賞受賞の「大平街道」、一水会展の「馬籠峠」「漆畑風景」、近年の大作の一つである「晴嵐」などである。

現在、一水会運営委員で、昭和54年勲3等瑞宝章を受けられている。

和歌山県立近代美術館へは「父の肖像」「横向きの婦人像」など25点を寄贈されているが、同美術館開館10周年記念展「1930年協会の作家たち」にも協力、昭和初期、洋画史の流れの再現に寄与された。